2　　地理歴史・公民

学校番号	303

平成３１年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	地理Ａ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	地理Ａ　世界に目を向け、地域を学ぶ　（第一学習社） 現代地図帳（二宮書店）						
副教材等	無						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・地図帳、教科書を活用する。
・地図作成をコンスタントに行う。
・教科書からプリント作成し、生徒のやる気と理解度を確認する。

2　学習の到達目標

・地図に親しみ、地理的認識力を高める。
・世界の生活や文化、産業等を考察することで、国際社会への理解と日本の相対的理解を深める。
・身近な地域に対する理解を深める。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	現代世界の地理的な諸課題に対する関心を高める。	現代世界各地域の課題を見出し、その解決すべき課題を考察する。	地図や統計、画像など地域に関する資料を収集し活用する。	現代世界の地理的な基本知識の定着を目指す。
評価方法	授業態度 発問評価	授業態度 発問評価 提出課題	授業態度 発問評価 提出課題	定期考査
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期		1章 地球儀や地図でとらえる現代世界 ①球面で世界を考えよう ②世界地図の特徴を知ろう ③世界観の広がりと地図 ④国家の領域と領土問題 ⑤国家をこえた結びつき ⑥交通機関の発達と縮小する地球世界 ⑦情報・通信で一体化する世界 ⑧人・「もの」・資本で結びつく世界	◎ ○ ○ ○ ○	◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ 	◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a 交通・情報・通信手段の発達過程や，それらの発達による地域間の相対的な位置・距離関係の変化に，関心をもつことができる。 グローバリゼーションの中で，人・「もの」・資本の国際間移動の複雑化や，国家的結びつきの変化に気づき，意識づけて学ぶことができる。 b 地球儀と世界地図を用いて，球面を平面に表現する際の特徴と問題点を，考えることができる。 国家とは何かをおさえた上で，国際間の人の移動や国際貿易，国家間の結合などが活発化・複雑化していることを地図から読み取ることができる。 c 表現する内容や用途に応じて，さまざまな図法の地図を地図帳（アトラス）やインターネットから集め，使い分けることができる。 d メルカトル図法，正積図法，正距方位図法の特徴と欠点を，知識として身につけている。 世界貿易の形態や課題を，知識として身につけている。	授業態度 発問評価 提出課題 定期考査
		2 章 世界の人々の生活をとりまく地理的環境 ①さまざまな環境の中で暮らす人々 ②世界的視野から見た地形 ③さまざまな地形と生活 ④世界的視野から見た気候 ⑤世界の気候と生活 ⑥世界の民族・宗教と生活・文化 ⑦生活・文化を支える産業の地域性	◎ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a 世界の人々の生活様式について，どのような特徴があるか，興味をもつことができる。 b 世界各地に現象面として現れる自然環境の地域性について，成因とからめておおまかにとらえ，その地域の産業とも結びつけて考えることができる。 c 教科書に掲載されている民族や宗教に関する図版・写真を適切に使用している。 d なぜ世界にさまざまな地形や気候が見られるのかを理解し，さまざまな地形の上で見られる人々の生活環境や，気候区ごとの生活の特徴を，知識として身につけている。	授業態度 発問評価 提出課題 定期考査

2学期		3章　世界の諸地域の生活･文化と環境 ①東アジアの暮らしを学ぶ ②東南アジアの暮らしを学ぶ ⑥ヨーロッパの暮らしを学ぶ ⑦ロシアと周辺諸国の暮らしを学	◎ ○ ○ ○ ○	◎ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a 世界の人々は，それぞれの地域の環境の中で，どのように生活しているかについて，関心をもつことができる。 b 世界各地域の生活と文化を学習することによって，異文化摩擦などが起こっている現状に気づくことができ，日本の生活・文化を絶対視することなく，広い視野から異文化を理解し，尊重することが必要なことを考えることができる。 c 他の地域で暮らす人々の情報を，ガイドブックや地誌・紀行文，インターネットなどで調べ,異文化理解のために取り組むべき課題を見つけ出すことができる。 d ヨーロッパの地域性をつかみ,一体化が進むヨーロッパを，ＥＵの取り組みなどから，理解を深めることができる。 ロシアについて，生活・文化と産業などの変化を知識として身につけ，この地域の課題と日本とのかかわりについて理解を深めることができる。	授業態度 発問評価 提出課題 定期考査
		4章　私たちが直面する地球的課題 ②人口問題－対照的な人口増大と少子･高齢化 ③食料問題－食料需給のアンバランス ④都市･居住問題－健康で安全な生活環境	○ ○ ○ ○	◎ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a 地球的課題は，地域によって現れ方が異なっており，その地域性に関心をもつと同時に，その地域性に応じた取り組みを考えようとする態度が身についている。 b 人口問題，食料問題，居住・都市問題，資源・エネルギー問題，地球環境問題などの地球的課題について，地域性をふまえて考察でき，その問題の所在や解決の方向性について，考えることができる。 c 各地球的課題について，問題点を抽出し，図書館やインターネットなどで調べることができる。 d 先進国と発展途上国で対照的な問題があることを理解できる。 食料分配の不平等が飢餓と飽食の地域差の原因であることを理解できる。	授業態度 発問評価 提出課題 定期考査

3学期		第2編 1章　日常生活と結びついた地図 ②身近な地図を読みこなそう ③地図表現について考えよう ④地形図を活用しよう 2章　自然環境と防災	◎ ○ ○ ○ ◎	○ ○ ◎	◎ ○ ○ ○ ○ ○	◎ ○ ○ ○ ○ ○	a 身近にあるさまざまな地図を収集して，地図を読むことの楽しさに関心をもつことができる。 観光地図や地形図の読図，統計地図の作図など，各種作業学習に積極的に取り組むことができる。 天気予報から四季によって変化する気候に関心を持たせる。 b 作業をとおして観光地図や地形図などさまざまな地図を読むことができる。 実際に天気予報を新聞を取り入れる。 また阪神淡路大震災を取り入れ地形の変化を考えさせる。 c 観光マップや所要時間マップなど，教科書に掲載されている地図を適切に参照することができる。 官公庁から取り寄せたり，インターネットを検索したりして，観光地図など各種の地図を集めることができる。 d さまざまな内容の作業を行い，地形図を読む際の決まりごとを知識として理解している。	授業態度 発問評価 提出課題 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。